

一般国道113号

赤湯バイパスが開通して

(平成21年3月27日開通)

①市街地の大型車交通が**6～7割減少**
②置賜総合病院への救急搬送時間が**8分短縮**



- 赤湯バイパス開通後、市街地を通過する大型車交通が**6～7割減少**しました。(全車では横ばい～2割減少)
- また、赤湯バイパス開通により、置賜総合病院への救急搬送時間が**8分短縮**されました。



《利用者の声》

赤湯の街中を通らずに会社に行くことができるようになりました。お客様もとても喜んでいますが、また、時間短縮により業務効率が上がりました。(南陽市在住 男性)

搬送時間が短縮され、出勤の場所により出入り口を選択できることから赤湯バイパスを優先的に利用しています。

(高畠町消防本部)

路面の振動がなく、特に脳血管障害を疑われる救急患者の搬送に大変役立っています。

(南陽市消防本部)

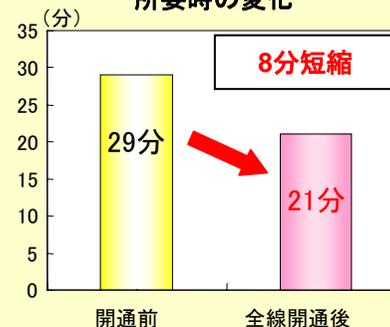
市街地の大型車交通の変化

宮内交差点
整備前:2,555台/日
6割減少
整備後:1,074台/日

桐塚交差点
整備前:825台/日
7割減少
整備後:288台/日

資料:山形河川国道調べ
整備前:H19.11(桐塚はH20.5)、整備後:H21.4

高畠町から置賜総合病院への所要時の変化



資料:平成11年道路交通センサス
注)赤湯BPIはH21.4実測値

赤湯バイパスの事業概要

事業期間:平成7年度～平成20年度
 総事業費:約270億円
 延長: L=7.2km
 幅員: 12.0m (自動車専用道路)